
luna

零ちがや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

luna

【Nコード】

N4981P

【作者名】

澪ちがや

【あらすじ】

『誰か』の夜の情景。散文的です。

育子は夜半に目を醒ます。

というよりもそれは半覚醒の状態で微睡んでいた意識を、明確な形あるものに引き戻したただけの行為であり、正確な目覚めとは呼べないのかもしれない。

今もなお意識の欠片はそこかしこに散らばっていて、手を伸ばせばかき集める事が可能な程近接に彼女を見下ろしている。そんな感覚が確かに在る。

育子は夜半に夢想する。

争いのない未来を。

光の届かぬ深海を。

静謐に凪いだ心を。

これ以上、欠落していく自らの何かが波濤に浚われない事を。

室内はどこまでも清閑として、宵闇が全ての輪郭を溶かし形而の上下を曖昧にする。

そしてそれはまた、彼女の孤独を助長させる材料でもあった。

長い睫が黒目勝ちの瞳に影を落とし、その微かな闇すらもやや鬱陶しく陰鬱で、育子は自らしばらく瞑目した。

厳密にはこの部屋において彼女は一人ではない。

ふたつ年下の実弟は、寝苦しいという理由で彼女の白いベッドを占領している。

その規則正しく上下する胸部とまなうらのリズムに思いを馳せるだけで彼女は幸せだった。しかしその晩は誰もが持ち得る『寂しい』という地獄を、憎らしい程清かな銀の光は嘲っていた。

ルナティック。

狂疾と月光の意を同じくするそれは、残酷に室内に満ち満ちて彼女を覚醒させた。

育子は瞑目を続ける。

こんな夜には思い出す。音もなく記憶が忍び寄る。

つらいという概念すらなく、発作を起こしては茫漠と、空に浮かぶあのルナを睨むように見上げていた少女の頃の事。

育子は瞼を開く。

弟を見やる。身じろぎも色も無く眠る姿は、幸福な死者のようだ。彼の人の茶水晶を思わせる髪も、青黒く渦をなし無造作に敷布に散らばっているのみである。

かたちに触れたい。
かたちを感じたい。

その熱を。その温度を。

育子は手を伸ばす。

胸に触れる。温かい。布一枚隔てた下に皮膚がある。肉がある。骨がある。髄がある。肺腑がある。護られるようにして、命のみなもとがトクントクンと脈打っている。

生きているね。

眠っているね。

目を醒ますのね。

そして笑うのね。

育子は頬を寄せる。

静かに瞳を閉じる。

来るべき朝に向かって。

来るべき目覚めに向かって。

了

（後書き）

もし感想など頂けましたら、励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4981p/>

luna

2010年12月14日21時45分発行